

# 第9世代へと進化した最新シリーズ 大本命の中核モデルが降臨

Text by  
**角田郁雄**  
Ikuo Tsunoda

Photo by 田代法生

この上下にリボン型トウイーターの特性と音色をベストマッチさせたアルミ振動板の中域ユニット(155mm ALTIMA)を配置し

この上下にリボン型トウイーターの特性と音色をベストマッチさせたアルミ振動板の中域ユニット(155mm ALTIMA)を配置し

その大きな特徴は高域ユニットに、同ブランドのお家芸のリボン型トウイーターを搭載していることだ。第9世代になって新設計されたリボン型トウイーター(QUSENSE)は、垂直方向を短く、水平方向の幅を広げ、楽器や声の質感を向上させ、同時に奥行き感のある空間再現力を実現したそうである。

キャビネットの長楕円形の開口部には、ラバー製ストリングスが縦に張られていて、エレガントさを表現していることにも、私は感激してしまう。実にニクイ、センスだ。キャビネット内部も、中域ユニットが、ウーファアの背圧を受けられないように区分され、吸音材を最適使用している。音質のコアとなるネットワーク回路では、高音質コイルやキャパシターが使われ、ウーファアのレベルを±2dB、高域と中域ユニットのレベルを±2dB可変できるレベルコントロールを装備している。まさに備

まさに価格に見合った  
高度なデザインと技術

ドイツの名門スピーカーブランド、クアドラルからAURAM9シリーズが登場した。その中でも特に注目しているモデルは「TITAN9」「VULKAN9」「MONITAN9」だ。私はずっとこのブランドのスピーカーに興味を抱いてきた。正直なところ、私の好みの音であり、ピアノフィニッシュのキャビネットとアルミ・ユニットのシルバーが、ドイツ製らしい精密感と絶妙な豪華さを醸し出している。ドイツの高級車の質感を憶えるのだ。とりわけ、「TITAN9」と「VULKAN9」が好きであるが、サイズを考えると後者の方が、一般家庭で使いやすいサイズではないかと思う。

これにより、中高域でバーティカル・ツイン構成(仮想同軸構成)がなされ、空間のリアリティを高めているのである。さらにダブル・ウーファアも最新のアルミ製ユニットだ(235mm ALTIMA)。

格に見合った、素晴らしいデザインと搭載技術である。

トウイーターの絶大なる効果だ。中低域の量感にも十分満足したが、その音圧感やコンデンサー型スピーカーに繋がるところがあり、深くりニアに浸透力をもって再現される。ドライブしやすいスピーカーであるが、私の好みとしては、ジェフ・ロウランドの最新プリアンプ「CapriS2」とパワーアンプ「Model125」(できれば2台ブリッジを使って、洗練されたシステム・デザインを構築し、長く愛用してみたい。それほどに、クアドラルのスピーカーたちは、魅力的なのである。聴いてみようではないか。

## Details



新開発のリボントウイーターは従来に比べ、垂直方向を短く、水平方向の幅を拡大。65kHzまでの超低歪な高域を実現する

新開発ウーファーはダストキャップを無くすことで、繊細さやダイナミックな再現力が大幅に向上。アルミダイキャスト製のバスケットも新設計

本機のリア端子部。リスニング環境に応じてレベルコントロールが可能(ウーファー=+2dB、ミッドレンジとトウイーター=±2dB)

キャビネット内部は各パーツを連携させることで、ダイヤフラム前面と、背面の負荷を完全にバランスさせることに成功した

# quadrAL VULKAN 9

スピーカーシステム  
¥2,500,000(ペア・税別)

## Specifications

●型式:3ウェイプレッシャーチャンバー型 ●基本デザイン:バスレフ型 ●定格入力:350W ●ダイナミックパワー:600W ●再生周波数帯域:21Hz~65,000Hz ●クロスオーバー周波数:220/3,100 Hz ●能率(dB/1W/1m):88dB ●インピーダンス:4Ω ●トウイーター:quadrAL quSENSEリボン型 ●ミッドレンジ:155mmφ quadrAL ALTIMA×2 ●ウーファー:235mmφ quadrAL ALTIMA×2 ●レベルコントロール:ウーファー +2dB/ミッドレンジ±2dB/トウイーター±2dB ●サイズ:280W×460D×1,200Hmm ●質量:54.9 kg(1本) ●取り扱い:ネットワークジャパン(株)

BEST HiFi  
Components

2018 SUMMER

Profile : ドイツを代表するスピーカーブランドのひとつである、クアドラルより同社トップエンド・シリーズにあたる「AURAM(オーラム)」シリーズの第9世代モデルが登場した。新設計ユニット等、大幅な刷新を実現した同シリーズに関しては、前号にてその最高峰となる「TITAN9」を紹介した。そして今号ではそのひとつ下の位置付けとなる「VULKAN9」が登場する。現実的なサイズ感の中に伝統と最新技術を凝縮させた、大本命ともいえる中核モデルがここに誕生した。

